

第2回 第二期武蔵野市市民活動促進基本計画策定委員会 議事録

- ・日 時 令和3年6月29日(火曜日)午後6時30分～8時30分
- ・場 所 武蔵野市役所 412会議室
- ・出席者 朝岡委員長、見城委員、千種委員、町田委員、森副委員長、渡邊委員、市川委員、北川委員、小島委員(名簿順、敬称略)
- ・傍聴者 0名

1 開会

【委員長】ただ今より、第2回第二期武蔵野市市民活動促進基本計画策定委員会を開会したいと思います。今日もよろしくお願いいたします。

配布資料の確認

ワーキングチームの設置について報告【資料1】

市民活動団体実態調査(アンケート)送付団体数等まとめについて報告【資料2】

2 議事

(1) 武蔵野市自治基本条例とその他関連の計画について

【委員長】武蔵野市自治基本条例とその他関連の計画について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】(資料3、改定計画、資料4について説明)

【事務局】前回の委員会でいただいた、「自治基本条例」の中での協働の書きぶりについて確認したいというご意見を踏まえての説明です。

武蔵野市では50年以上前から市民自治という言葉のスローガンとして市政を進めてきております。ただ、これまでの市民自治の取り組みは必ずしも条例で担保されているものではありませんでした。市政に根付いてはいるものの、将来にわたってしっかりと継承していくため、前市長のときに公約となり、昨年条例として実を結んだものです。

協働の書きぶりについては、今までの個別計画でも定義を示しておりその定義を変えたわけではありません。個別計画の中で記載されていた内容をわかりやすく解説も付けて示したものです。

資料4は項目だけの記載でわかりにくいかもしれませんが、基本的には長期計画がベースです。長期計画に協働や市民自治の記載があり、分野ごとに市民と一緒に取り組むべき施策が書かれており、それが個別計画にも反映されています。あらゆる分野にまたがって市民参加、協働が横串をさすように書かれています。

【委員長】ありがとうございます。前回委員会のご意見を受けてのご説明でありました。委員から何かあればお願いします。

【B委員】資料同士の関連についてご説明いただいたので、よくわかりました。どうもありがとうございます。

【委員長】これについては改めて委員の皆さんにご一読いただき、「自治基本条例」を意識しながらこの市民活動促進基本計画を策定していければと考えます。また、不明な点については随時事務局にお問い合わせいただくと資料等をご提供いただけたと思います。

他の委員の方で、この件に関してのご質問・ご意見等ございますか。

【D委員】ワーキングチームのことでお尋ねします。所管部署からそれぞれ参加して設置したワーキングチームということですが、リストを見ると高齢者支援課が入っていません。また、市民活動団体が運営している場所や市民が行きやすい場所を管轄している部署がワーキングチームに入っていないので、その辺りどうお考えなのかを伺いたしたいと思います。

【事務局】健康福祉部の地域支援課から1名がワーキングチームに入っております。地域支援課が同じ部となります高齢者支援課や障害者福祉課から出た意見も集約してまとめ、健康福祉部全

体の意見として出すという認識です。

(2) 武蔵野プレイス見学会の感想について

【委員長】武蔵野プレイス見学会の感想について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】(資料5について説明)

【委員長】黒い菱形のところに書かれている内容は出席委員の意見を反映しているということですが、これにとらわれずご感想をお話しただければと思います。

【D委員】私が出した意見は「②コーディネート機能の状況について」で、最初の黒い菱形のところに書いてあります。3階の市民活動エリアに活気やワクワク感がなく事務的なので、コーディネートを担う職員の人物紹介などの掲示を行ってはどうかと思います。地下フロアにはワクワク感が随所に見ていましたが、訪れる市民とスタッフとの交流がなかったような感じで、その辺りが気になりました。

【副委員長】プレイスに行ったことはありますが、説明を伺う機会がなかったのが、貴重な経験をさせていただいたと思感謝しております。コーディネート機能について、私の場合は障害者福祉が中心ですが、その分野でもコーディネーターと名の付く職種が年々増えています。コーディネート機能に関してはコーディネーターさんの努力だけではなく周りとの連携がどこでも課題になっており、プレイスの職員の方々もその辺りで苦労されているのではないかと思います。市民協働＝プレイスのようになりつつありますが、それが協働なのかという疑問も感じるので、みんなでプレイスに携われるような仕組みができればと思います。

【B委員】コロナ禍のためプレイスの利用状況も普段とは違っており、本来の姿を見ることができなかったのは残念でした。ただ、フロアのさまざまな機能や資料の整理の仕方、サービス提供のあり方を見ると、この10年で市民活動支援の形がきちんと整えられてきているという印象を持ちました。プレイスは市の西部にありますので、立地問題がかなり大きな意味を持つように思います。登録団体も西部のほうが多いということで、中央や東部の市民活動団体の潜在的なニーズにきちんと応えられているかが気になるところではあります。吉祥寺図書館等、東部にある施設に市民活動支援の機能を持たせてはどうかというお話も出ていたので、それが今回の基本計画を策定するうえでの焦点の一つになるかと思います。コーディネート機能の充実についてはまだ課題が残っているというお話もありましたが、市民活動促進基本計画の改定計画でもそれが非常に重視されていたことから考えると、今回の基本計画策定においても論点になるかと思います。

【C委員】場所が3階ということで足を運びにくい面があり、1階に気軽に相談できるような所があればと思います。武蔵野市はそれほど大きな市ではないので、それを考えると施設は一定数あると個人的には思っています。横須賀市や藤沢市の市民協働の所を見学したことがあるのですが、プレイスが出来てから武蔵野市は一段とよくなった感じがします。施設も新しく、設備にしても充実しており、そういう点では一歩先に進んでいるという印象です。市民活動というのは、こちらがいくら仕掛けても本人に意欲がなければできません。意欲を醸成していくことも大事で、その辺りの育て方が今後の課題かと考えます。NPOに対する補助金制度がありますが、過去にもNPOの活動を通して市民活動が広まったという成果として出ている事実もあるので資金面での援助や場所の提供が必要だと思えます。施設には維持費がかかります。プレイスでも年間5億8千万円ぐらい維持費がかかるのですが、その中でもメンテナンスが問題で、芝生が全部枯れて土ばかりが舞っているという状況です。そういう中、施設と市民協働をいかにうまくつないでいくかが課題かと思えます。

【F委員】先ほどB委員がおっしゃったように、私も地域的な問題は一定あると思います。武蔵野市にとってのプレイスとは市民活動をシンボライズした建物であり機能ですが、どこまで知られているか、あるいは知らせる努力をしているかということに関しては疑問が残ります。東部にサテライトオフィス等を設置し、そこからプレイスに誘導するような動きが必要で、誘導の末いろいろな実績が集積されていけばもっと利用者が増えるのではないのでしょうか。地下にある青少年

のフロアではさまざまな経験、あるいは学習ができますが、それを継続的に保障していくにはどうすればよいかと思います。

【委員長】計画策定において武蔵野プレイスの位置付けについての話をどこかでしなければならぬと思うのですが、私は武蔵野プレイスについての説明を聞いたのは3回目で、行っただけであれば5、6回訪れています。訪れるたびに印象が違うのですが、それは活動が熟してきているからだと思います。地域的な偏りや機能の問題はあるかもしれませんが、武蔵野市における市民活動のモデルとして武蔵野プレイスという存在があるわけです。建物のデザインが注目を浴びがちですが、むしろ活動内容や機能が武蔵野市を象徴しているように思います。現行計画にも武蔵野プレイスの有効活用ということで1項目だけ入っていますが、次にどういう入れ方をするかは別にして、これからの武蔵野市における市民活動促進の具体的なイメージとして武蔵野プレイスのあり方を皆さんで共有しつつ、それを市全体にどのように広げるべきかといった議論をしたほうがよいと考えます。資料5の「③コロナ禍を踏まえた観点について」の最初の黒い菱形のところが私が発言した内容かと思うのですが、コロナが発生してから2年目に入り、元の世界には戻らない予感がします。つまり、withコロナによって我々が否応なく対応せざるを得なかったことが、ある意味で以前の活動に影響を与え、いろいろなものが新しい段階に入るような気がしているわけです。保守的な学校でさえ変わり始めています。子どもたちがタブレット端末を用いて教科書をデジタルで見えるようになり、また、パソコン等を通してのオンライン授業も始まりました。教え方や学び方が変わらざるを得ない典型的な例であるわけですが、武蔵野市における公共施設での活動のあり方等も我々の想像以上に速く変化し始めると思われます。それを予測したうえで、これからの市民活動の支援はどうあるべきかという議論をしたほうがよいと考えます。武蔵野プレイスは非常に優れた機能とスタッフを有しているわけですが、この数年でいろいろな課題が出てきていることも確かです。このコロナ禍を一つのステップとしてその課題を解決し、バージョンアップしていく必要があると思います。そういう視点で武蔵野プレイスの評価をしたいと思い、あえてコロナ禍というものを持ち出した次第です。ハードの問題はどこにもありますが、武蔵野プレイスを見ていると新しい可能性があるような気がします。授業の関係で、2017年に封切られた「ニューヨーク公共図書館」という映画を観ました。設置形態が公と民でユニークなうえ、アメリカには公民館がないことに驚きました。つまり、図書館がコンサートや就職セミナーを開催するなど、公民館のような活動をしているわけです。それが、規模は違うものの武蔵野プレイスと少し似ていると思いました。私は日本の社会教育や市民活動支援のあり方が型にはまりすぎていると常々感じております。公民館、図書館、博物館、スポーツ施設と分かれていて、各々の活動は充実していますが、それが逆にネックになっていると思います。市民がいきいきと柔軟に学び活動できる場になりきれていないような気がします。武蔵野プレイスのスタッフのお話を聞くと、施設にいただけではなく、武蔵野プレイスの外でいろいろな市民活動を積極的に支援していくスタイルに変えていくという方法もあるのかもしれないと思います。「ニューヨーク公共図書館」の話に戻りますが、図書館が家庭にWi-Fiを提供しており、それは図書館の仕事だろうかと思いましたが、要はニューヨーク州全体を視野に入れた必要な活動をしているわけです。それを見て、武蔵野プレイスでも市民活動全体を支援できる可能性があるのではないかと改めて思いました。

皆さんから他に何かございますか。

【E委員】プレイスは年間190万人もの来館者数を誇り、公共施設としてはトップクラスです。しかし、3階はその割には活気が少ない印象です。当初は4つの機能を備えた複合施設で、図書館をベースに交流や知的創造とコンセプトがあったと思うのですが、3階は置き去りにされているような感じがしています。ただ、そこが最も可能性のある所だと思っていて、令和4年の文化事業団と生涯学習振興事業団の統合を控え、これから立地も含め文化や芸術の団体と一緒に何かができるのではないかと考えております。文化事業を担っている文化事業団の例を挙げると、表に出て行く「アウトリーチ」というこれまでとは違った流れが出てきています。これまでは海

外から招聘した来館型の事業を行っていたのですが、コロナでそれが難しくなったため、自分たちで動き始めたというわけです。ですから、プレイスの管理運営を担う生涯学習振興事業団が、文化事業団と一緒にすることで、違うフィールドも増えるのではないかと考えております。個人で具体的に何かをしたいと考えている方々は3階のカウンターを訪れて相談できますが、そのカウンターから表に出てきてもらいたいと感じているところです。非常に可能性を秘めている施設だと思いますので、この場で皆さんと議論する中、よりよくしていければと考えております。

【委員長】先ほど申しあげましたように、武蔵野プレイスという施設は武蔵野市における市民活動支援の象徴的な意味合いを持っていますので、今日の議論だけではなく繰り返しいろいろな形で取り上げていきたいと思っております。また、必要に応じてスタッフの方にも来ていただき、意見をお聞きする機会があってもよいかと考えます。

(3) 市民活動・団体運営の現状・課題報告について

【委員長】市民活動・団体運営の現状・課題報告についてですが、委員をご指名してご発言いただく形になります。事務局よりご紹介をお願いします。

【事務局】市民活動アンケートをお送りさせていただいた団体様の代表であられる委員さんに、ここでご意見をいただきたいと思っております。F委員、A委員、D委員、どうぞよろしくお願ひいたします。

【F委員】私はコミュニティ協議会という立場で来ております。活動の歴史は長いのですが固定化しており、メンバーも高齢化しています。スタッフの増強についての努力はしていますが、新しい人が入ってきません。その原因の一つとして、ある程度の興味・関心は持っていますがあるため日常的に関われないということがあります。そのため、スポット的に関わってもらう工夫はしてきました。でも、決してうまくは行っていません。コロナ前の段階では「助っ人バンク」という事業を立ち上げて募集をかけました。家具の修理や庭いじりが好きな方を募集し、助っ人の作業が終わればお茶でも飲みながらお話をしましょうという取り組みをしたのですが、すぐにコロナ禍に入ってしまう、数名の方をメンバーに取り入れたままの状態です。その中の1人は67歳で、既に定年退職された方ですが、暇な人ほど使われてしまうコミュニティということではなく、自分の時間に合わせて関わられるコミュニティにしていきたいと思います。また、コミュニティセンターの運営に関わっている人たちは若い人とのつきあい方を知りません。若い人に慣れておらず、心を開いての会話が成立しにくい状況です。窓口業務にしても人が足りません。そこで、社会教育や生涯学習といった地域コミュニティに関心のある大学生の方にインターンシップとして入ってきてもらえればと考えております。彼らにとってはそれがゼミでの評価につながり、運営側にとっては日常的な業務の中で若い人とのつきあい方を学べる機会になると思います。コロナ禍で中断はしましたが、若い世代をコミュニティ活動に取り込んでいくために子育て世代の人、特に父親を巻き込む取り組みを行っています。親子ひろばに出向いてこちらの男性メンバーが父親に声をかけ、自分の子育て経験を話したりしました。その中にドイツの方がいて、パンを自分で焼いているというお話をされたので、ドイツパンの作り方をみんなで習おうと盛り上がり、お父さんたちのLINEグループが出来ました。それと、団体としてこれから何に取り組んでいかなければならないかという、やはりデジタル化です。コミュニティセンターはその遅れが決定的で、Wi-Fi環境がありません。早急にWi-Fiの整備を進める必要がありますが、その前段階でセンターを運営している人間がWi-Fiについて何もわかっていないので、そこを学んでいく作業も必要になってくると思います。

【A委員】私たちはNPOで、元々は公共の分野で活動していたのですがそこから出て自立しました。まず箱物から始まり、それが時代とそぐわなくなってきた自立するようになって以降、逆に箱がないからこそできることもあると感じました。とはいえ、やはり箱がなければ信用が得られないという問題も出てきて、そういった諸々を含めて箱に戻り、今は拠点を定めて活動しております。拠点を維持する固定費と運営を継続していくうえでの人材が絶対に必要で、私たちの拠点や活動

を知ってもらうための広報と合わせ大きな課題となっています。人材についてですが、ボランティアが中心になってはならないと私の立場としては考えていて、安定的な活動を続けていくためにはやはり雇用というものを考える必要があると思っております。そういう中、活動の部分と収入を得るための事業の2つに分けて進めてきました。コロナ前には企業さんの福利厚生に関わらせていただいて、よい流れになっていたのですが、コロナで見事なまでに散ってしまいました。乗りかけたものがほぼ飛んで大きな影響が出ましたが、社会全体もストップしたことで考える時間ができたと思います。うちは図書館活動をしておりますので、コロナ禍でも貸出はしていました。それは公共の図書館でないからできたことかと思えます。コロナ禍の中、自宅にいながら楽しめることをどういう形で提供できるかと考えた結果、Zoomを導入し、うちのボランティアの大学生に企画を任せ、オンラインで工作や手遊びの発信をしました。ある子どもさんが「今日は大学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんとオンラインで遊ぶ日だ」と他のお子さんに言ったようで、それなら自分も参加したいという形で広がりが見えていますので、この活動はコロナが収まっても続けていきたいと思えます。ICT等の利用状況についてですが、ネット環境がない人もサポートできるように思っていたところ、コロナがきっかけで、ネット環境がなければならぬサポートはできるとわかりました。もちろんネット環境があるからこそつながれる形もあるし、引き出しを増やしていく方向に活動をシフトできたかと思えます。事業収入は厳しくなりましたが、うちの団体的には有り難いことに寄付がかなり増えました。寄付のお願いの仕方はバランスが難しく、あまりにも強く訴えとお金を欲しがっているだけの団体に見えてしまいます。でも運営費を考える必要はあり、コロナで厳しいと皆さんにお伝えしたところ、いろいろな形でご支援いただきました。事業に関してはネットショップの運営に取り組んでおります。他にはデリバリーの事業を商店会さんと一緒にさせていただき、その中で本の貸出もしたのですが、かなり反響がありました。外に出るのが難しい方がデリバリーで本の貸出をご利用できるので、自分たちの事業だけではなく連携することに意味があると思えました。他にも連携できることがまだまだありそうな気が個人的にはしています。

【D委員】私は基本的には主婦ですが、法人化していないNPO、個人での任意団体を2つばかり運営しています。子どもが小さいときから社会の課題に関心を持っていたのですが、当時は自分の声を届けることができなかつたという悔しさがありました。その後、こういった公募委員をさせていただいているうちに市民活動推進の団体を自分で起こそうと決意しました。でも、子育てや家事、介護など、家庭内でのいろいろな役割が主婦である私にのしかかかっていて活動を継続する時間がなかなか取れないという実情があります。ですので、できるときに不定期で活動したい、そして私が思っている課題に対して同じ考えを持っている人たちとつながり、プロジェクト方式でのトークイベント等を楽しく行いたいということで企画をしてきました。そういう形なので活動資金はほとんどありません。会費を取って運営する形ではないため民間の助成金や行政の補助金を申請する、クラウドファンディングで資金を募るといった形で運営資金を作って活動をしてきました。この活動がコロナ禍でどうなったかといえば、人と会えなくなり、公共施設も商業施設も使えず、メンバー同士の話し合いも難しい、家族の理解も得られないということで対面での活動は休止せざるを得ませんでした。こういう状況になってしまいましたが、その中、活動を何とか続けられるツールとしてオンラインが唯一の救いになりました。地域活動や社会の課題に関心のある子育て世代の方や学生さん、会社員の方などとオンラインという手段を使って夜の9時や10時からのミーティングや勉強会を定期的に行っています。ただ、オンラインだけでは発信の仕方もマンネリになり、あまり盛り上がりません。やはり私たちは声をさまざまな所に届けたい、いろいろな人に知ってほしいという気持ちがあります。行政に対して求めたい協力は、公共施設におけるWi-Fi環境の整備です。オンラインで何かを発信してたくさんの人に聞いていただきたいと思ってもWi-Fi環境がなければルーターを借りる必要がありますが、そのルーターの貸出さえも現場にないというのでは、こちらの持ち出しになってしまいます。市民活動に対する支援としてオンライン環境の貸出や場所の無料化、Wi-Fi環境の整備をしていただければかなり違くと

思います。法人化していないNPOについても、公共性があり地域課題について真剣に取り組んでいる団体に関しては、その気持ちを受け止めて支援していただくようお願いいたします。

【委員長】お三方、ありがとうございました。これから計画を策定するうえでのイメージづくりということで、市民活動団体としてのそれぞれの状況をご報告いただきました。今のお話を受けてのご感想やご質問、あるいは議論を進めるうえで論点とすべきことについてのご意見等あればご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。

【E委員】A委員にお聞きします。今までは団体の中だけで活動されているイメージがあったのですが、SNSの活用のお話を伺うと、つながりが広がっていったような印象を受けました。市民意識調査等においても、地域活動の参加者を増やすためには積極的な広報や情報をオープンにすることが大事という意見が多く見られますが、集まった活動よりもSNSを活用するほうが人々に広がっていている感覚はありますか。

【A委員】恐らくSNSだけではだめで、リアルな場があってこそそのSNSだと思います。ただ、SNSを見れば実際に関わる前に活動内容がわかる利点もあるため、そういうことで情報発信に努めています。他の団体さんのホームページの中にはイメージ写真だけでどんな活動をしているかわからないものもありますし、逆に文字ばかりの恐いホームページ、最終更新が10年前で活動しているかどうかさえわからない、といったものもあるので、一般的な感覚とずれないように発信の仕方を意識しています。以前は活動の都度ブログ等で発信していたのですが、今はそこまで手が回りませんし、逆に発信しすぎてもまた違う問題が生じるので、その辺りのバランスは若者に意見を聞きながら考えております。他には、何を見て参加したかなどのヒアリングをこまめにしています。どういうものでも口コミが一番で、客観的な判断が大事だと思っております。今はInstagramのリアクションが最も強いので、ツイッターやフェイスブックと連携させて広げています。SNSを見て安心できたという方がいますし、個人情報や伝えなくてもつながれるツールでもあるので、メリットだけでなくデメリットもありますが、うちはプラスに働いているほうが大きいかなと思います。

【委員長】他にいかがでしょうか。

【B委員】お三方のお話の中から、今回の基本計画策定にあたってのポイントになるような事柄が共通して出てきていると思います。最初のNPO活動促進基本計画のころから、武蔵野市の市民活動推進のベースには、組織化された団体と市がどう協働していくかという枠組みがあります。それに対して、この市民活動促進基本計画では、公益性のある事業だけでなく共益性や私益性のあるものも市民活動に含めてよいのではないかという議論をしているわけですが、やはり中心は公益性のある活動になってしまっています。組織化された団体と市の協働というのが大きな枠組みとして存在しているわけですが、それでよいのかと疑問もあります。D委員の団体は公助的な組織ではないので、市役所としては協働の相手には頼りないという話にこれまではなりましたが、もうそういう時代ではありません。個人ベースのものも含めて考えていく必要があります。そこまで広がっていかねば市民活動の幅が狭まると思います。もう少し枠を広げ、それを支援するようなプラットフォームを市が用意していく発想が必要です。これまでの市民活動はフルでコミットメントを求められることが多かったのですが、それでは若い人や仕事を持っている人は入れないと思います。しかも市民活動を行った第一世代があまりにもすごく、その人たちは若者がいい加減に関わってくるのが許せません。そうすると、どうしてもハードルが上がってしまうので、新しい人が入ってきたとしても居心地が悪く、抜けていく人もいるのではないかと拝察します。だから、もう少しパートタイム的な関わりでもよいのではないかと思います。公益、共益、私益の区別は非常に曖昧なので、公益ということを前面に押し出さないほうがよいかもしれません。個人が楽しいと感じることをどのように支援するかという視点が大事だと思います。個人の市民活動を後押ししていく必要があることと関連して考えるべきは、オンラインでの市民活動支援です。もちろん人と人が会って何かをしなければ生まれのないものもありますが、先ほど伺ったお話のとおり、オンラインだからこそ参加できる人もいます。フルタイムで働いている人たちも、

例えば帰りの電車の中からZoomで協議会等に参加できるかもしれません。武蔵野プレイスにしても、プレイスの機能をオンラインに載せて提供していくことも考えられます。所在地は境南町であっても、コーディネート機能や中間支援機能というのはオンラインでも提供できますし、実際オンラインの活用によってこれまでより人が来たという事実もあります。リアルな場所も要りますし人との実際のつながりも必要ですが、その一方でオンラインだけで参加する人もいて構わないと思います。オンラインを入れることによって武蔵野市民と別の自治体の人とともに活動できる機会も当然出てきて、それもよいと考えます。オンラインで生まれるネットワークというものを視野に入れた計画を立てる必要がある時期に来ているのではないかと考えております。

【委員長】非常に大事な論点をご指摘いただいたと思います。他にいかがですか。

【副委員長】福祉的な視点でお話しさせていただきます。活動への参加の仕方をどのように広げるかということと併せ、活動を通じてどのような社会課題を解決していくかといった視点も取り入れていただければと思います。抱えている社会課題によっては公的なものが適しているかもしれないし、プロジェクト方式のほうがよいということも出てくるでしょうから、そこも併せて考えたいと思います。社会的な課題というのはマイノリティになればなるほど見えにくくなり市民だけで解決するのは困難ですので、そこは市との協働の視点を取り入れていく必要があります。オンラインを通じて世界中の人とつながれる一方、例えば生活保護を受給されていてご自宅にWi-Fi環境のない方が参加してみたいと思った場合、Wi-Fi環境をどのように整えるかという問題が出てきます。コロナ前に私は他の会議の委員をしており、そのとき同じく委員をされていた方が協議会の会場に来るためにヘルパーさんを手配するのが大変なのでオンラインで参加したいと言われていたのですが、費用面で折り合いが付きませんでした。でも、コロナ禍でオンラインが普及し一瞬にして状況が変わったことを考えれば、マイノリティの方との対話を通じてみんなが過ごしやすい形が整えられるような形も見えてくるでしょうし、それが市民活動の効果につながる可能性もあるかと思うので、社会課題を抱えている当事者の方が参加するにはどうすればよいかという視点も併せて持っていたいただきたいと思います。

【委員長】他にいかがでしょうか。

【F委員】先ほどからデジタル化やオンラインの話が出ていて、次の計画には当然それが必要になってくるわけですが、いわゆるデジタル弱者をどうするかという問題があります。私どもの協議会ではパソコン教室を開いているのですが、1か月半前からそれをスマホ教室に変えました。その理由は何かという、コロナワクチン接種のQRコードの読み取りができない人が多かったからです。コミュニティセンターのような高齢者も含めて対応する所でのデジタル化というのは、ハードを導入するだけではなく安全な使い方を知っている人間を配置する必要があると思います。

【G委員】皆さんにプレイスにご来館いただき、いろいろなご意見を頂戴したことで、私たちも大きなヒントをいただきました。私どもの市民活動フロア運営協議会でもどのように活動を広げていくか、どういうものが支援として望まれているのかという話し合いをちょうど先週したところで、皆さんから頂戴したヒントを含めながら取り組んでいこうと考えております。施設管理者として申しますと、プレイスは、「図書館」ではなく「複合施設」という形で10年前に開館いたしました。でも、このコロナ禍で会話禁止になり、一気に図書館化してしまったような印象を持っています。うちは複合施設であって図書館ではないことがこの10年で随分知られてきましたが、最近の苦情等の内容を見ると図書館化の形に後退しているように思います。ただ、E委員がおっしゃっていたように、来年度には文化施設との統合が控えており、これを機に違う方向に持っていければと私自身思っているところです。先ほどオンラインでできる市民活動があるのではないかというお話もありましたが、私は統合に関する広報を担当しており、ホームページを作成しているところで、検索すると市民活動のみならずスポーツや文化、芸能の活動も見えてくるような機能を持たせたいと考えております。当施設のホームページがスポーツ施設や文化会館の情報を提供するハブの役割を担えればと思っています。

【委員長】この委員会は2回目ということで、次回からはアンケート結果の分析も含め現状を把

握しながら計画の策定に入ってまいります。本日、委員の皆さんのお話を聞いて武蔵野プレイスの方向性が見えたような気がしています。つまり、武蔵野プレイスをオンライン環境が整備された市民活動の拠点にする手があるというわけです。そうすれば、わざわざ人を集めようとしなくても、みんなスマホやパソコンを通じて集まってきます。3階のワークラウンジに人が集まらないというお話も出ていましたが、武蔵野プレイス全体のオンライン環境をモデルケースになるような形で整備すれば、少なくとも地下2階と1階、3階、4階は人でにぎわうだろうと思います。そこで一日中スマホを見ていても構いませんし、ミーティングルームで話し合うにしてもその人だけではなくオンラインを通して世界の人々とつながってもよいわけです。今までの活動とは違う、まさにハイブリッドだと思います。人々が一箇所に集まる形の活動だけではなく、そこから発信することにより、いろいろなつながりが生まれます。そして、それが地域全体の活動支援に発展していく可能性もあると思いました。先ほど話題にした映画「ニューヨーク公共図書館」ですが、人々がパソコンやスマホを図書館に持ち込んでいます。司書もいて、利用者からの質問にインターネットで検索しながら教えているシーンもありました。ただ、個人がインターネット上の情報を取得した場合、ファクトチェックができません。だから、仮に武蔵野プレイスのような所をWi-Fi拠点とするなら、いつでも事実確認や相談ができる場として存在する必要があると思います。そうすればオンラインでつながる形でも大きな問題は起こらないし、孤立することもないと思います。計画の見直しの時期にコロナ禍になってしまいましたが、それで逆に武蔵野プレイスをはじめとした武蔵野市の市民活動支援の可能性が一気に広がったような気もしています。いろいろと課題はあるかもしれませんが、今日のお話を皆さんで共有しながら、これから計画を策定していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【B委員】事務局をお願いしたいことがあります。前回の委員会で改定計画の2019年度における基本施策の実行状況の表を出していただきましたが、2019年度だけでなく改定計画全体における基本施策の進捗状況をまとめたものをご用意ください。その際、なるべくニュートラルに実行できたものとできなかったものを整理していただけると有り難く思います。そこを出発点に議論していく必要があると思いますので、よろしくお願いいたします。

【事務局】確かに前は1か年度のみ資料でした。平成29年度に改定計画が出来ましたので4年分になってしまうかと思いますが、その間の進捗についての資料をご用意させていただきます。

【委員長】検証するためですので、正確な形でご提示いただきたいと思います。

(4) 計画に求めること、期待することについて

(5) その他

※議事(3)に含まれるものとする。

3 事務連絡

【委員長】次回の日程について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】資料6の通り、次回は

7月21日(水) 19時~21時 111会議室

感染状況によっては、開催時間を30分早めることになる可能性もあります。そのときは、またご連絡いたします。

委員会の開催方式についてですが、対面での参加を基本としつつ、それが難しい場合にはZoomでの参加も可能とします。Zoom参加者の発言をどうするかなど、具体的な会議運営の方法については、次回までに検討していきます。

【委員長】このままでは、また緊急事態宣言が出る可能性があるため、是非オンライン参加を認める方向でお願いしたいと思います。正副委員長とご都合のつく委員さんだけで対面にし、他の委員さんはオンラインでの参加という形です。オンライン参加の人も議論に参加できるよう、スクリーンにオンラインでの参加者を映し出し、そしてマイクスピーカーを使うなどして、オンラ

インでも対面でもあまり差がないよう工夫していただきたいと思います。

【事務局】承知しました。

【委員長】それでは、閉会したいと思います。お疲れ様でした。

以上